

英仏独のジャーナリストを招き日本の現状や日欧関係のあり方を議論

－ 欧州ジャーナリスト招聘プログラム －

期 間： 2019年3月18日（月）～3月22日（金）
参加者： ヘンリー・トリックス 英ザ・エコノミスト社 ビジネス担当副部長
オラフ・ジェルスマン 独ヴェルトN24社 経済・金融部長
ファブリス・ノード・ラングロワ 仏ル・フィガロ社 国際経済部長
コーディネーター： 有田 拡人 経済広報センター 国際広報部主任研究員

経済広報センターでは、日欧の相互理解や経済関係の強化を目的として欧州ジャーナリスト招聘プログラムを実施しており、3月18日から22日にかけて、イギリスの政治経済誌ザ・エコノミスト社のヘンリー・トリックス・ビジネス担当副部長（元東京支局長）、ドイツの経済紙大手ヴェルトN24社のオラフ・ジェルスマン経済・金融部長、フランスの日刊紙大手ル・フィガロのファブリス・ノード・ラングロワ国際経済部長の3名を招聘した。

一行は、国会議員や省庁、企業ではヤフーや日立製作所などの関係者と面会し、日本の経済・社会情勢、日欧経済関係の現状と課題、さらにはメディアのあり方や電動自動車普及に向けた取り組みなどについても意見交換した。



ノード・ラングロワ氏

また3月20日には、同センターの会員を招いたシンポジウム「欧州ジャーナリストが見た日本と今後の欧州関係」を開催し、第1部では3氏が今回の来日を通じて感じた率直な印象を交えたプレゼンテーションを行い、日本の長所や短所、日欧経済関係のあり方などについてさまざまな問題提起があった。続く第2部では、刀祢館久雄日本経済新聞

上級論説委員をモデレーターに迎えてパネルディスカッションを実施。日本が官民上げて Society 5.0 の実現に向けて取り組んでいる社会課題の多くは、欧州諸国が直面する課題と共通しているため、日欧が相互理解を深め、知恵を出し合って連携することが重要との意見で一致した。



トリックス氏



ジェルスマン氏

3氏は帰国後、それぞれの紙面などで、今回のプログラムの模様を発信することとなっている。



左から、ノード・ラングロワ氏、ジェルスマン氏、トリックス氏、刀祢館氏

以 上

一般財団法人 経済広報センター 国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話 : 03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/> ※本稿の無断転載を禁じます。